

2011年 バスハイク

～歴史的な建物と自然が織りなす身延山へ行ってきました～

2011・8・27

平成23年度のバスハイクは、山梨県の身延山・久遠寺に行きました。

このバスハイクは前人気も高く、参加者は大型バス定員ぎりぎりの49名でしたが、キャンセル待ちやお断りする方も出てしまい、大変ご迷惑をおかけしました。

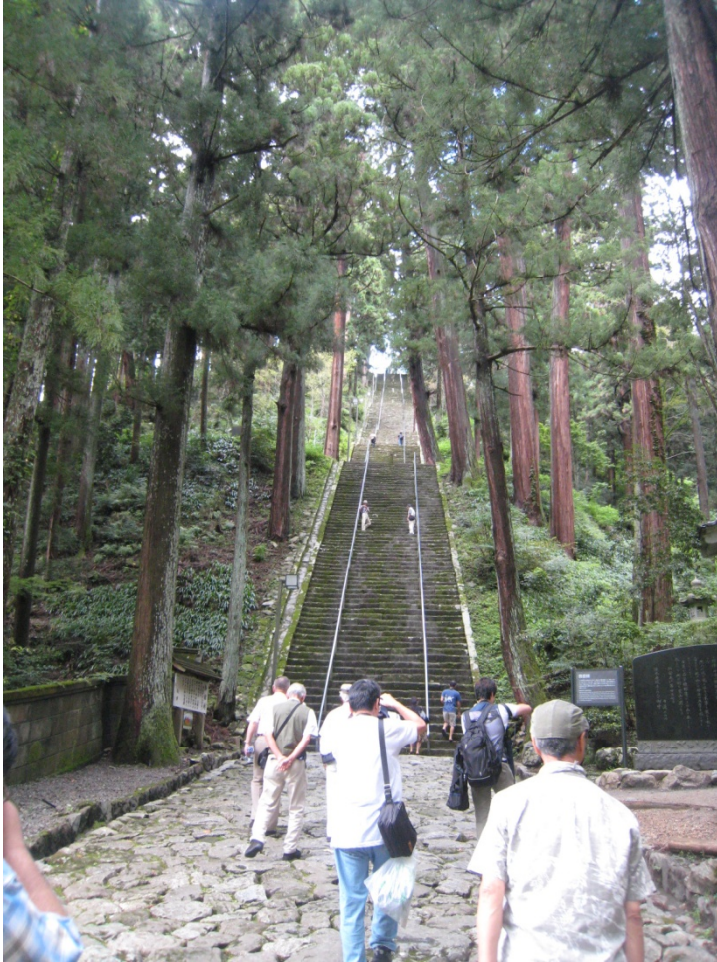
身延山は神奈川から行くには、近いようで意外と不便なせいか、初めて訪れる方も多く、先の東日本大震災被災地の早期復興を祈願する意味も含めまして、久遠寺を一日かけてじっくりと見学しました。又、今回は建築士会会員のご友人が久遠寺の関係者ということで、境内の隅から隅まで、日ごろ参拝客が入れないような場所にまで案内・解説して頂き、大変お世話になりました。

身延山久遠寺は1274年(文永11年)日蓮が庵を結んだことに始まる日蓮宗の総本山です。

1474年、第11世日朝が大伽藍を建立。戦国時代以後は武田氏をはじめ多くの武将の保護を受けて発展しましたが現在ある大本堂・御真骨堂・祖師堂など、ほとんどの伽藍は明治の大火後に再建されたものです。



久遠寺:三門



←菩提梯：

三門と本堂を真一文字に結ぶ 287 の石段からなる参道。高さ 104m、急勾配の石段は南妙法蓮華經になぞらえて七区分されています。

石段に挑戦する方、バスで迂回する方、それぞれで参拝しました。

→上から見た菩提梯

かなりの急勾配、しかも蹴上が高い 287 段は健脚の方でも大汗をかきました。



→五重塔



江戸時代前期1619年(元和5年)創建の五重塔は1829年焼失、1860年に再建されましたが、わずか15年後の1875年(明治8年)全山を巻き込んだ大火により再び焼失しました。約130年ぶりに再建された(平成18年～平成20年)この五重の塔は、元和5年創建の復元の塔で、材料・工法・意匠にわたって当時の姿を再現されたものです。木部は伝統木造工法、基礎・構造補強は現代工法を取り入れています。復元工事に携わった方からも詳しく解説して頂き、改めて日本の伝統木造工法の素晴らしさを実感しました。

→ 昼食は「いさご屋旅館」

創業100年以上の老舗旅館です。

木造3階建の現在の建物は、浅間神社のそばの「富士宮御殿」と呼ばれていたものを移築したものです。

「やまなしたてももの散歩」に紹介されています。

